

● 酒匂川はんらんの様子

三つの土手ができてからも、酒匂川のはんらんはたびたびありましたが、富士山の大噴火のあとのはんらんは、ひどいものでした。

ふりつもった火山灰が流れ出して川底が3mも上がり、大雨による濁流が大口土手をおし流してしまったのです。田畑も家も流されてしまいました。

右の図をみると、たくさんたくさんの村々が流されるようすがわかります。

とくに、班目村、岡野村、千津島村、壙下村、竹松村、和田河原村は、村に一人も住めず、台地になっている怒田村などに小さな小屋を建てて住み、木の実、草の実を食べてやっどくらししていたという記録が残っています。

1708年の大洪水では、班目村にあった珠明寺や、壙下村にあった善福寺などが流され、怒田山に移されました。

怒田山に移り住んだ人びとは、1729年ごろから元の家にもどりはじめました。しかし、1734年の夜中の大洪水



酒匂川はんらんの様子（1720年、村々の人々が幕府に修理を願い出たときの絵図）

でたくさんの方がなくなり、
また怒田山ににげて不自由な
生活になりました。

翌年よくねんから少しずつ村に帰り
はじめたということです。珠
明寺めいじ ぜんぶくじや善福寺は、今でも怒田
の高台のこに残っています。

怒田の台地にひなんしてい
たところで、今でも班目まだらめや千
津島つしまの人が畑たがやとして耕してい
る土地がたくさんあります。

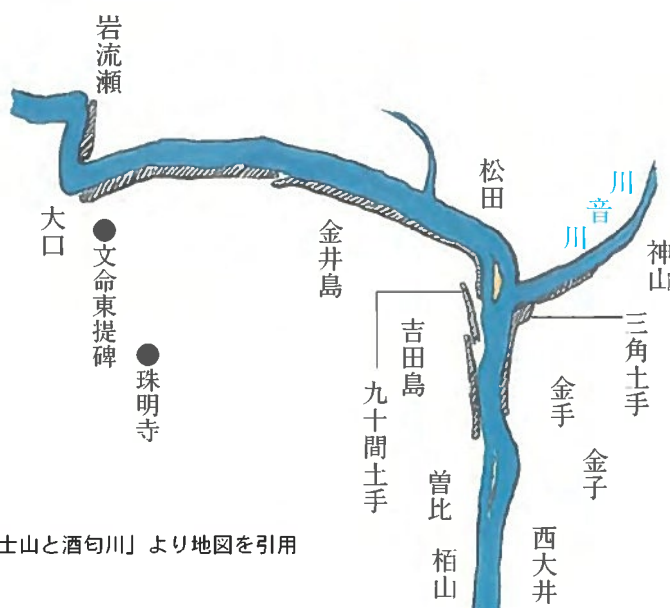
南足柄市や開成町かいせいなどには
〇〇島、〇〇河原がわらなどといっ
た地名がたくさんあります。
これらの地名も、酒匂川さかわの洪
水ずいと関係あるようです。



手前の平地から移った珠明寺（怒田山）



酒匂川の洪水でなくなった
人びとのお墓（珠明寺）



足柄歴史新聞「富士山と酒匂川」より地図を引用

● 田中丘隅・蓑笠之助と文命堤

むかしは、土地
はどのさまの領地
でしたから、かっ
てに土手をなおす
ことができません
でした。村の人々
は、江戸幕府に何

ていぼう工事のようす（そうぞう）



度も土手の修理を願い出ました。幕府は、1723年川崎の名主で土
手作りの名人だった田中丘隅に、大口土手の復旧工事の担当を命じ
ました。丘隅は、まず春日森土手を、続いて岩流瀬土手をなおし、
1725年12月から大口土手の工事にとりかかりました。竹であんだ
かご（蛇かご）を工夫し、流れに入れて石をつめました。1726年5
月に完成しました。酒匂川は、もどのように松田寄りに流れました。

むかし、中国に、洪水とたたかった有名な人がいて、「文命」とよ
ばれました。丘隅は、この人の名をとって、大口土手を「文命堤」と
名付けました。そして、岩流瀬土手は「文命西堤」、大口土手は「文
命東堤」とよばれるようにもなりました。また、丘隅は人々に土手
に水神さん（文命社）を建てさせました。また、桃や梨を植えさせ
たり、石を運ばせたり、5月5日に祭りを行うようにさせたりしました。



文命東堤碑

しかし、この文命堤も1734年に流され、
大きな被害が出ました。今ある大口土手は、
田中丘隅とともに文命堤を築き、丘隅がなくな
ったあとも酒匂川のあちこちで土手づくり
に活躍していた蓑笠之助（代官）が指導してな
おしたものです。笠之助は、土手の表面に大
きな丸石を使い、こわれにくくしました。

● ^{どて} ^{まも} ^{ちえ}
土手を守る
知恵

大口の土手には、大きな木が何本もはえています。石（坪石）がたくさんつんであり、水防倉庫というものが



げんざいの大口土手（文命東堤）

あります。中には蛇かごなど洪水を防ぐために使われるものが入っています。

石は、^{のう} ^か ^{かわら}農家の人が河原からはこび上げたということです。むかしは、お祭りに来る人はかならず一つずつ石を持ってきたそうです。

5月の福沢神社の祭りの日には、土手の上に、植木の市やお店が出ます。むかしは、すき、くわなどの農具や農産物が多かったそうです。また、むかし、土手の先の河原（今の河川敷グラウンドあたり）に馬場があり、まわりには大きな松の木が植えられていました。祭りの2日間、近くの村はもちろん、^{おやま}小山町あたりからも農家の馬が集められ、^{けい} ^ば競馬が行われていました。これが1950（昭和25）年ごろまで続けられ、たくさんの方が見物しました。



水防用石材



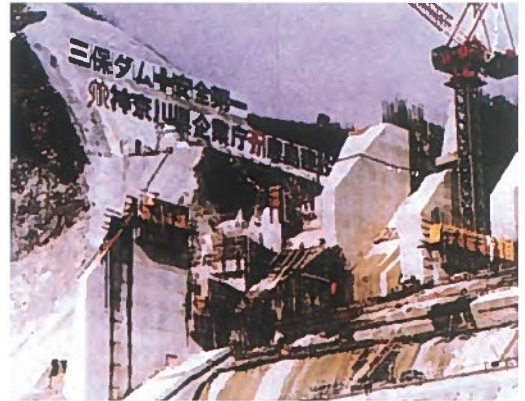
大口土手の水防倉庫



水防倉庫の中身

このように、祭りで土手の上を大ぜいの方が歩きます。これも、土手を守ることになるといわれています。

(4) 三保ダムと酒匂川



三保ダム工事のようす

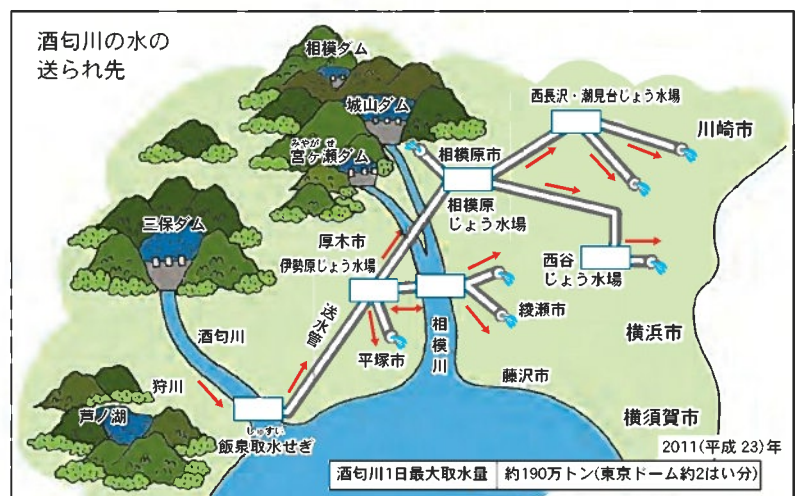
● 神奈川県人口 ●

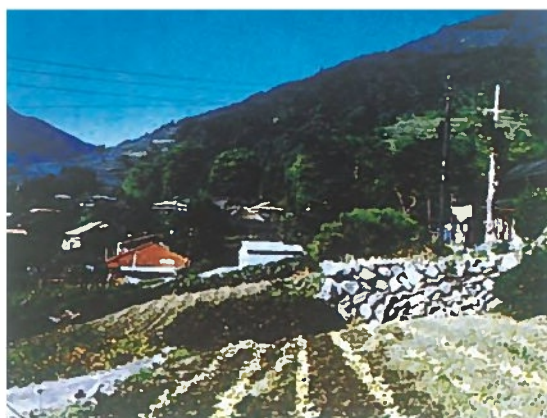
三保ダムと 丹沢湖	年	人口
	1970 (S45)	547万人
	1975 (S50)	640万人
	1980 (S55)	692万人
	1985 (S60)	743万人
	1990 (H2)	798万人
	1995 (H7)	825万人
	2000 (H12)	849万人
	2005 (H17)	879万人
	2010 (H22)	900万人
	2013 (H25)	906万人
	2015 (H27)	910万人
	2017 (H29)	915万人

1978(昭和53)年、酒匂川の上流に「三保ダム」ができました。高さは95m、土と岩石をつみ上げたロックフィルダムです。

このダムは、県と県水道企業団、姫川電力株式会社が共同で作りました。建設工事には、32トンダンプトラックなどの大型機械が使われました。

三保ダムは、何のために作られたのでしょうか。そして、ダムの水はどこへどうやって送られるのでしょうか。





ダムにしずむ前の村（世附）

三保地区に住んでいた多くの人は、山北町向原地区や中井町、開成町、南足柄市などに移転しました。

ダム建設反対の運動もありましたが、結局、住みなれたふるさを出ていったのです。移転した人々の気持ちを考えてみましょう。

人々が4、5千年前から住み続けてきた三保の村は、神奈川県全体の水確保のため、大きく変化したのです。

- 水没した家（世帯数） 223戸
- 移転した人の数 1,026人
- 水没したいろいろな施設
 - ・ 小学校・中学校・保育園・郵便局
 - ・ 発電所・神社・寺・役場支所
 - ・ 県道11km・町道5kmなど
- ダムのまわりに新しくできた施設
 - ・ 丹沢湖記念館・三保の家・ダム広場
 - ・ 小公園・駐車場・ハイキングコース
 - ・ サイクリングコース

移転した人々の気持ち

6月のある日曜日沈みゆくふる里へ
別離をこめて訪れた家族があった。
吊橋が……
秋まつりで胸おどらせたお宮の広場
が……
かけっこをしたあの村の小径がどん
どん沈んでいく。
遠い祖先から村を守ってくれた水神
さま、庚申さま
それに道祖神さま
私達を生み育ててくれたうるわしの
山河。
今、長い歴史の幕を閉じて湖底に沈ん
でいこうとしている。
終日、家族はここを離れようとしなかつ
た。
(丹沢湖記念館)